

論文の内容の要旨

氏名：中 神 尚 子

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：正常眼圧緑内障における眼圧下降治療の効果と視野障害進行因子に関する研究

目的：正常眼圧緑内障（normal-tension glaucoma：以下 NTG）における視神経障害の発症に眼圧因子の強い関与が指摘され、米国における多施設共同前向き研究の結果から積極的な眼圧下降療法の有用性が検証された。しかし、眼圧以外の因子の関与の可能性や、欧米人よりも眼圧レベルの低い本邦の NTG 患者に対する眼圧下降療法の有効性についての論議は不十分であった。本研究では、日本人の NTG 患者に対する眼圧下降療法の意義と眼圧因子の影響を評価し、さらに眼圧以外の眼内因子や眼外因子が視神経・視野障害進行に与える影響について検討した。

対象と方法：眼圧日内変動検査を含む入院精査により NTG の診断確定後、眼圧下降薬点眼治療のみで2年間以上もしくは4年間以上の経過観察を行った症例を対象に、眼圧下降治療効果、視野障害進行に対する眼圧下降状況、視神経乳頭形状の関係、観察開始時の視野障害病期との関係、全身疾患の加療歴、緑内障家族歴、その他の全身疾患の合併の影響について検討した。統計学的検討は Kaplan-Meier 生命表分析と Cox 比例ハザードモデル分析を用いた。

結果：眼圧下降薬点眼治療下での視野障害非進行確率は 51 か月で 61%、77 か月で 56%であった。①日内変動平均眼圧高値、②治療下平均眼圧高値、③治療下眼圧変動幅増大、④視神経乳頭形状が generalized cup enlargement タイプ、⑤観察開始時視野障害後期、⑥観察期間中の乳頭出血出現、の 6 因子が視野障害進行因子として選択された。また、全身疾患の合併の有無にかかわらず、眼圧下降が不良例は視野障害が進行した。緑内障家族歴の関与については言及できず、さらなる検討を要した。

結論：日本人の NTG において、眼圧下降治療は視野障害進行抑制に有効であり、眼圧因子の重要性が再確認された。さらに、眼圧動態、眼圧以外の多因子の関与を含め、症例ごとの詳細な管理が必要である。